

1/25(土)まじど！倫理研。今月のテーマ「目標を立てる」仲間と共に共有して
PDCAサイクルを取り入れる 様子まじど！目標を立てるは27本対策

今週の

倫理

幸福の輪はPDCA

2020. 1. 25～1. 31

1月のテーマ | 目標を立てる

1170号

A氏は昨年九月、倫理法人会の会長に就任して
から二年目を迎えました。今年度は周年行事を行
なう節目の年度でもあり、役職者と共に会を活性
化させたいという気概から、年度末の目標を九十
二社に設定しました。

その矢先のことです。経営者セミナー
の講話者として訪れた講師の助言から、十一月
の周年行事までに会員社数百社へと資格復帰す
ることを決意しました。ところが、計画通りに物
事は進まず、会員社数も八十社を切ってしまった
のです。

A氏は、思う通りに動いてくれない役職者への
不満と不信が募っていきました。それでも、「百
社を達成する意義は必ずある」と信じて、あきら
めませんでした。そして、泣きたい気持ちを抑え
ながら、目標に向かって前進していったのです。

その際、目標達成の意義と計画を多くの役職者
に伝えて、共有していきました。「百社」という
目標と計画を全役職者が共有し、実行に移して
いく過程で、「必ずできる」と確信に変わった時、
会が「組織」として動き始めたのです。やがて、
新たな仲間（入会者）を続々と迎え、みごとに期
限前に目標を達成し、役職者皆で喜びを分かち合
うことが出来たのです。

会一丸となって、普及の好循環を生み出したA
氏は、実はPDCAサイクルを取り入れていたの
でした。PDCAサイクルとは、自己実現やより
良い成果を収める手法の一つで、企業では主に、
品質管理などで活用されています。

このサイクルは計画(Plan)・実行(DO)・
評価(Check)・改善(Action)を繰
り返すことにより、業務や取り組み方などを改善
していくことにあります。



目標意識の本気度を高めて 組織として走り始める

ここでの計画は、現状分析力と未来へのイメー
ジ力、それを実現するための目的意識を持つこと
です。基本的には、目標を達成するには何が必要
かを具現化していきます。その計画は、チャレン
ジ精神を盛り込んで設定し、誰からも共感できる
だけの普遍性を持った目標を立てていきます。

やるべきことをやるべき人が実行する。その成
果を冷静に分析評価し、取り組んでいく過程で、
計画にあつていない部分をそぎ落とし、皆と前向
きに共有し改善していくことが肝要です。

こうしたことの鍵となるのが、目標なのです。
目標とは、目的に到達するための目印であり、行
動を進めるにあたって実現・達成を目指す水準で
す。ここでは、期限や数量を数値化していきます。
目標が達成できるかどうかは、目標意識の高さや
その本気度、そして行動力とチーム力に関係しま
す。A氏が会長を務める単位倫理法人会も、役職
者、会員が「年度目標を達成して、より良い会に
したい」という姿勢が実行に変わり、目標達成と
いう結果へとつながったのです。

「目標意識をはっきりと持つことは、希望の火
を掲げることと同じである。希望のあるところ
には必ず目標があり、目標があるから希望が湧
くのだ。来る日も来る日も、何をやってよいか
分からないようでは、希望の掲げようもあるま
い。目標を具体的に把握することは、理想を明
らかに示すことに他ならない。中略、生きて
いる限り今はこれをやるのだという目標をし
っかりと見極めて、堂々と毎日を働きぬく。こ
れが生きがいというものだ」(『丸山竹秋選集』
一度きりの人生です。令和時代の初めての年明
けに目標を立てて、果敢に挑戦し、より良い自分
を、家庭を、企業を自らの手で築きましょう。